

対話結果の公表

中山活性化センター周辺の活用に関するサウンディング型市場調査の対話結果の公表について

令和5年11月29日

鳥取県大山町 総合戦略課

1. サウンディング実施の経緯

本町では、「アウトドアライフ構想」を策定し、その実現に向けて様々な事業展開をしているところです。そこで、交流の拠点施設である中山活性化センター及びその周辺エリアの魅力アップに向けた整備事業等を効果的に実施するため、予め民間事業者の皆様等との「対話」により、中山活性化センターの再整備や運営に関するアイデア等について広くご意見をお伺いし、今後の取組の参考とさせていただくものです。

その結果を別紙のとおり公表いたします。

2. サウンディングの参加者

(業種 コンサルティング事業者：1社)

(業種 アウトドア関連事業者：2社)

合計：3社

3. サウンディング結果の概要

以下にいただいたご意見を参考としながら、地域の観光資源を活用した地域経済循環の官民連携事業公募型プロポーザルの実施要項の内容を検討いたします。

提案者の業種①	コンサルティング事業者
提案の内容	<ul style="list-style-type: none">・中山活性化センターは交通の便が良いとは言えない。・ただ、地域の食の資源を活用した取り組みを行うと効果的。・例えば、中山活性化センターにキッチンカーが集える環境を整える。・一方、そのキッチンカーは全国のイベントに出店し、ロコミで大山（中山活性化センター）が拠点であることを広める。・そうすることにより、中山活性化センターに集客を図る。・その収益を活用するなどし、中山活性化センターの維持管理や設備投資につなげていく。・なお、キッチンカーへの設備投資は国の補助金などを活用する。・人材については地域おこし協力隊の制度を活用する。・このような事業展開で、年間約2万人が訪れる場所になると考えられる。

提案者の業種②	アウトドア関連事業者
提案の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育館を利用し雨の日でも過ごせる屋内アクティビティ施設を整備する。 ・ 町内の事業者と連携して屋内スケートボードパーク、木工工房などの整備を行う。 ・ 甲川でのシャワークライミング、七鳥橋から一息坂峠を周遊するサイクリング、冬場のスノーシューツアーなど近隣の自然環境を活用した屋外アクティビティガイドの発着拠点として活用する。 ・ 近隣に酪農事業者・ジビエ・米作りが盛んな集落などがあるのでそれらや甲川の魚など、食材を調達し調理室で料理し食べることができる体験プログラムの整備を行う。 ・ 国内だけではなく、インバウンド需要も取り込むことを目指す。 ・ 住宅地から離れている立地を活かし、屋外スペースで音楽。マルシェイベントを行う。 ・ アウトドアブランドと連携できればと考えている。 ・ こうした活動で、地域の人々の副業機会が充実したものになるとよい。

提案者の業種③	アウトドア関連事業者
提案の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の資源を活かした3つの事業展開に可能性のある地域である。周辺 IC から 30 分もかからない立地にもかかわらず、山、川、海の自然環境が豊富であるという強みを活かし、中山活性化センターのみならず、その周辺のエリアを活用したい。 ・3つの事業とは、キャンプ事業、体験事業、物販事業が考えられる。 ・キャンプ事業は多様なテントサイトやグランピングエリアの整備によりさまざまなニーズを捉えた宿泊事業を展開する。ギアレנטアルやアーリーチェックインなどの付帯サービスも設計。運営は指定管理者制度などを活用。 ・体験事業は自然環境を活かした体験をツアーやイベントにして商品化、地域でアクティビティ事業に携わっている又はこのような事業を行いたいという人と協業し、バリエーション豊富な体験商品醸成を目指す。運営形態は民間による自主事業。 ・物販事業はアウトドア用品をはじめ地場のおみやげ物、軽飲食、地元食材を取り扱う。地元企業や地元でアクティビティコンテンツを提供する人とのコラボ商品を開発する。訪れた観光客のお土産ニーズにこたえる。運営形態は民間による自主事業。 ・期待される効果は、新規増加交流人口 10 万人/年（日帰り 7 万人＋宿泊客 3 万人）を目指すことができる。経済波及効果は地域内消費額 29.1 億円/年（日帰り客消費額 11 億円、宿泊客消費額 17 億円、ふるさと納税等関連消費額 1.1 千万円）を目指すことができる。